

研究ノート

日本の看護ならびに小児看護における 音楽療法の概念分析 — Rodgers らの概念分析のアプローチを用いて —

Concept Analysis of Music Therapy Nursing and Pediatric Nursing in Japan:
Using the Approach of the Concept Analysis of Rodgers and Others

伊藤良子

Ryoko ITO

旭川大学保健福祉学部保健看護学科

キーワード：看護，小児看護，音楽療法，概念分析

抄 録

【目的】日本の看護ならびに小児看護における音楽療法の概念分析を行い，定義を明確にし，看護ならびに小児看護における音楽療法の活用の示唆を得ることである。

【方法】Rodgers らの概念分析のアプローチを用いての概念分析を行った。

【結果・考察】看護に関するもの 33 文献からでは，先行要件は 6 つ，属性は 3 つ，帰結は 6 つが抽出された。看護に関する概念は「患者と家族の日常生活場面や医療を受けるさまざまな看護場面において，患者と家族をリラックスさせ，患者と家族の意欲と生活能力を引き出す看護ケア」と定義した。

小児看護に関するもの 12 件からでは，先行要件は 5 つ，属性は 3 つ，帰結は 6 つが抽出された。小児看護に関する概念は「子どもと家族の日常生活場面や医療を受ける場面において，子どもと家族をリラックスさせ，本来持っている子どもと家族の能力を引き出すケア」と定義した。

【結論】2 つの概念から，さまざまな看護場面で音楽療法を活用することにより，患者と家族のQOL向上につながる看護実践の推進をする重要性を含んでおり，概念に基づく看護実践ならびに小児看護実践に向けてのさらなる研究が必要である。

I. はじめに

音楽療法は，補完・代替療法（Complementary and Alternative Medicine：CAM 以下 CAM と略す）の一つである。音楽療法は，対象者である人間を全人的に把握し，個別性を重視した対象者の良好な状態の維持や治癒の促進へ治療目標をもって，非侵襲方法で行う点で，看護と類似していると推察する。

看護場面で音楽を利用することについては，林の「看護場面において音楽を利用した論文の文献的考察」によると 1963 年から 1990 年文献の最古のものが 1964 年のものであり，50 年以上にわたり看護場面で

音楽を利用した音楽療法がおこなわれていたと考えられる¹⁾。

長瀬らの 2009 年から 2010 年における看護職者 96 人への調査によるとの CAM への関心は 82 人 (85.4%)，CAM を積極的に取り入れるべきと考える人 89 人 (92.7%)，CAM の定義を知らない人 65 人 (67.7%) であり，活用したことがある人 50 人 (50.1%) であり，療法別に見た関心と活用経験では，アロマセラピー，マッサージに続く 3 番目が音楽療法で 7 名 (14.0%) であった²⁾。

医学中央雑誌 web (Ver.5) (1983 年～2014 年)での検索では，キーワード「音楽療法」4145 件，「音楽

療法 AND 看護」954 件（内原著 325 件）である。原著論文でみると 1986 年から 2014 年報告の 5 年ごとの動向は 1985～1989 年で 12 件、1990～1995 年で 45 件、1995～1999 年で 45 件、2000～2004 年 87 件、2005～2009 年 89 件、2010～2014 年 47 件であり、実践・研究が行われてきていることがわかる。

川島みどりらが行っている看護音楽療法を見てみると、野田の音楽運動療法を継承していると推察される。

野田療（医学博士）が提唱している音楽療法とリハビリテーション療法を融合させた音楽運動療法（The Musico-Kinetic Therapy）は、音楽を用いた様々な方法で脳を賦活することにより、残存している脳機能の働きを活性化させ、対象者の ADL（日常生活動作）、QOL（生活の質）の改善を目指すものとしている。野田は、音楽家、医師、看護師、理学療法士、作業療法士の密接な協力があって音楽運動療法は成立するとし、各地の脳神経外科病院、リハビリテーション病院、障害児教育施設、特別養護老人ホームなどの協力を得て、認知症や植物状態の患者、自閉症児などを対象に音楽運動療法を実施し、時間をかけながら着実な成果をあげてきている。

しかし、音楽療法は、小児から高齢者までを対象とし、様々な場面、方法で看護ケアとして取り入れられているが、看護ケアとしての音楽療法として十分に確立はされていない。さらに小児については、文献も少なく日々の看護ケアとして十分に確立し、実践としての継続性ができていない。

このような原状から、看護ならびに小児看護における音楽療法の概念を明らかにすることは、看護ならびに小児看護における音楽療法の活用の示唆を得ることとケアの広がりや充実につながり、看護実践の質の向上につながると考える。

II. 研究目的

Rodgers らの概念分析のアプローチを用いて、日本の看護ならびに小児看護における音楽療法の概念分析を行い、定義を明確にし、看護ならびに小児看護における音楽療法の活用の示唆を得ることである。

III. 方法

1. 概念分析

本研究は、Rodgers らが提唱した概念分析法（evolutionary method）を参考にして分析した。本方法は、概念の歴史的背景を探り、概念に関する合意内容を確認し、概念に関する意見の一致および不一致の範囲を区分することによって、概念を明確にする帰納的記述的探索法である。

2. データ収集方法

Rodgers らは、サンプリングの一般的なガイドとして、着目した分野から 30 件、あるいは総数の 20% 程度の文献を選択するように推奨しているため、それを参考に文献を収集した。

看護に関するものは、医学中央雑誌 web、CiNii の、出版年から 2015 年まで、「音楽療法」AND「看護」のキーワードによる 2015 年 5 月末日時点での検索結果は以下であった。

医学中央雑誌 web では、「音楽療法」4391 件、「音楽療法 AND 看護」1009 件（内原著 427 件）であった。CiNii では、「音楽療法」1987 件「音楽療法 AND 看護」151 件であった。

検索された文献の中から、文献のタイトルや抄録を確認し、健康障がいのある患者と家族を対象とした内容を本研究の対象文献として適性を判断し、原著論文の中から入手可能なもの 33 件を分析対象とした。

小児看護に関するものは、医学中央雑誌 web、CiNii、科研究費助成事業データベース、機関リポジトリ学術情報検索のデータベースを使用し、出版年から 2014 年までの「音楽療法」AND「看護」AND「小児」でのキーワードによる 2014 年 6 月から 7 月時点での検索結果は以下であった。

医学中央雑誌 web では 62 件（内原著が 13 件）、CiNii では、5 件、科研究費助成事業データベースでは、4 件、機関リポジトリ学術情報検索のデータベースでは 0 件であった。

検索された文献の中から、文献のタイトルや抄録を確認し、対象文献として適性を判断し、原著論文として入手可能なもの 9 件と、会議録の中から入手可能なもの 1 件と必要と思われる文献 2 件を追加し、12 件を分析対象とした。

IV. 結果・考察

1. 看護に関するもの（使用文献一覧を表4に示す）

1) 先行要件

表1に示すように6つの先行要件が抽出された。

【不安・ストレス】【疼痛による苦痛】【意欲低下】
【意識低下】【情緒不安定】【生活行動困難】である。

2) 属性

表2に示すように3つの属性が抽出された。

【個別性・安全性に配慮した音楽療法】【他の療法との
コラボレーションによる音楽療法】【継続的音楽療法】である。

3) 帰結

表3に示すように6つの帰結が抽出された。

【積極的・自主的行動変化】【身体機能の維持・向上】
【不安・ストレス・疼痛の軽減】【意識状態の維持・
改善】【生活行動改善】【患者と家族のQOLの向上】
である。

4) 看護における音楽療法の概念モデル

以上の結果から看護における音楽療法の概念モデル
を図1に示す。

音楽療法は、小児から高齢者までを対象とし、病院、
施設、在宅と多様な看護の場において、看護ケアとし
て展開されてきた。個別性・安全性に配慮した音楽療
法、他の療法とのコラボレーションによる音楽療法、
継続的音楽療法により様々な効果が得られ、音楽療法
と看護ケアの融合による患者と家族のQOL向上につ
ながる看護実践の推進につながる重要性を含んでい
る。

以上のことより看護における概念は「患者と家族の
日常生活場面や医療を受けるさまざま看護場面にお
いて、患者と家族をリラックスさせ、患者と家族の意欲
と生活能力を引き出す看護ケア」と定義した。

2. 小児看護に関するもの（使用文献一覧を表8に示す）

1) 先行要件

表5に先行要件の結果を示す。

5つの先行要件が抽出された。

【外来待ち時間】、【入院・検査・処置・手術に対す
る不安・ストレス・疼痛・苦痛】【情緒不安定】、【生
活行動困難】、【子育て支援】である。

表1 日本の看護における音楽療法の先行要件

カテゴリー	サブカテゴリー	主 内 容
不安・ストレス	さまざまな状況に対する不安	手術への不安 慣れない環境への不安 親と離れる不安
	緊張やストレス	緊張 ストレス
	不安やストレスから行動変容	妄想が目立ち 幻覚 不穏に対する鎮静薬使用 頻回にナースコールを押し
疼痛による苦痛	傷や疾患による痛み	変形性膝関節症患者の膝関節痛 創部痛 疼痛
	痛みからくる身体症状	痛みによる血圧上昇
意欲低下	感情の鈍麻や意欲減退	自発性の低下 抑うつ状態 表情が乏しい 意欲が低下 継続意欲低下
	周囲（他者）との関係維持に支障	人との関係性が築けない コミュニケーション障害 閉じこもり 生きる活力低下
意識低下	意識レベル	意識レベルの低下
	傾眠や見当識等意識障害	傾眠傾向 見当識
情緒不安定	感情の不安定さ	情緒不安定 精神不安定
	感情の非コントロール	感情のコントロールができない 拒否的行動
生活行動困難	生活リズムの乱れ	昼夜逆転 睡眠時間の乱れ 覚醒リズムが破綻
	自力での日常生活行動困難	認知症高齢者、障害児（者）の要介護 立位保持や歩行は困難 寡動、易転倒性
	疾患や未成熟・加齢による 身体機能 の低下・不足	麻痺や安静による長期間の臥床による活動性の低下 嘔声（手術時の反回神経損傷のため会話に支障） 未就学児のため腹式呼吸習得困難 難治の疾患、加齢による心身機能の低下 言語障害 右上下肢弛緩性麻痺 パーキンソン病による身体機能低下 日常生活全介助 想起力低下

表 2 日本の看護における音楽療法の属性

カテゴリー	サブカテゴリー	主 内 容
個別性・安全性に配慮した音楽療法	個人に合わせたプログラムでの音楽療法	個別で音楽に合わせた運動, 歌唱 個別対応で1/f揺らぎを多く含む音楽を用いて 個別歌唱 個人セッション 人工呼吸器装着患者への個別での受動的音楽療法 回想を促す音楽療法
	個人のニーズに沿った音楽療法	セラピストが楽曲ごとに, 演奏に向かうところから終わりまで, 状況に合わせたアセスメントを行い介入する それぞれの音楽体験を話題にしたケア
	チームで個々の状態に合わせた安全な音楽療法プラン作成	医師・看護師は, 患者の全人的健康を向上させるために, 患者の健康状態やニーズを音楽療法士へ情報提供を行い, 音楽療法士は患者のニーズを反映した音楽療法プランの作成と実行に関与する 音楽療法士, 医師, 作業療法士, 言語聴覚士, 看護師, 介護福祉士等によって構成される音楽療法チーム 多職種と患者参加による音楽療法 医療スタッフ・家族とともに本人と歌う 多専門職者により構成される音楽療法チームを組織
他の療法とのコラボレーションによる音楽療法	他の活動と音楽療法の併用	日常生活活動への音楽併用療法 認知症予防活動の体験学習として音楽療法とレクリエーションを提供 民謡, 童謡など対象になじみの深い曲を用いた集団音楽療法
	他の療法と音楽療法の併用	温巻法と音楽聴取を組み合わせたケア なじみの音楽と回想法 音楽療法とコーラージュ療法 (前半: 音楽療法, 後半: コーラージュ療法) ぜんそく音楽教室で, 音楽を使って腹式呼吸法を練習 看護音楽療法 呼吸法と童謡・抒情歌等の歌唱指導を実施
継続的音楽療法	定期的な実施	4年間の音楽療法 2年間計54回にわたる創造的音楽療法 1回30~60分, 週2回, 計8~10回の個人セッション 呼吸法と童謡・抒情歌等の歌唱指導を2年6ヵ月にわたり実施 療法チームを組織し, 1回30分間週2回, 計10回の個人セッション 音楽療法とコーラージュ療法を月2回1時間のセッション (前半: 音楽療法, 後半: コーラージュ療法)で12回実施
	他職種連携による継続	音楽療法士から引き継ぎ音楽療法を訪問看護師が継続
	場面や状況に合わせて継続	音楽療法は, 待合室, 手術室, 回復室の3部屋で行われた

2) 属性

表6に属性の結果を示す。

【看護師によるBGM使用の受動的音楽療法】、【音楽療法士や音楽家による生演奏の受動的音楽療法】、【参加型セッションによる生演奏の能動的音楽療法】3つの属性が抽出された。

3) 帰結

表7に帰結の結果を示す。

6つの帰結が抽出された。

【家族の前向きな行動へ変化】、【母児双方のリラックス】、【積極的・自主的行動変化】、【身体機能の向上】、【不安・ストレス・疼痛の軽減】、【児と家族のQOLの向上】である。

4) 小児看護における音楽療法の概念モデル

以上の結果から小児看護における音楽療法の概念モデルを図2に示す。

小児看護における音楽療法は、小児看護の場である病院の外来や病棟における治療や検査・処置・手術の場面、地域における育児不安に対する子育て支援や障がい児へのQOLの向上のための、BGMや生演奏による受動的音楽療法、参加型セッションによる能動的音楽療法を音楽療法士と連携を取り入れることができ、様々な効果が得られている。

以上のことより小児看護における音楽療法の概念は「子どもと家族の日常生活場面や医療を受ける場面において、子どもと家族をリラックスさせ、本来持っている子どもと家族の能力を引き出すケア」と定義した。

表 3 日本の看護における音楽療法の帰結

カテゴリー	サブカテゴリー	主 な 内 容
積極的・自主的行動変化	意欲が向上・積極的行動に変化	ええ曲だったなど音楽聴取に対して肯定的な評価 患者の意欲、積極性の向上
	前向きで自発的な行動に変化	子どもが病気に対して前向きに取り組む姿勢を確認 心身両面に働きかけるケアとして、心身機能の低下があっても自立した生活を維持する上での支援策として有効 認知症高齢者の自発性を引き出す
身体機能の維持・向上	身体機能の改善	神経心理学的有効、精神状態安定、NK細胞活性 神経難病に対する全セッション終了後免疫能の改善
	身体機能の獲得	未就学児が無理をせず、楽しく、腹式呼吸を習得できた
不安・ストレス・疼痛の軽減	緊張が緩和された表情・身体に変化	表情の改善 笑顔が増える 正常血圧領域へと収束する傾向 望ましい非薬物療法の一方法となっている 冠状動脈疾患患者に対する音楽療法は心負担にならない療法 子どもが泣かない 孤独感の軽減
	ストレス緩和	創痛のコントロールされた患者は、音楽療法によりストレス緩和 個人の好みの音楽または抽象音楽がストレス緩和
	感情コントロール リラクセス	イライラ感などが良好な状態へ変化 感情的安定 情緒性の改善 遊んでリラックス いつも張りつめていた気持ちが楽になった 保護者も子どもたちと歌い、リクリエーション 情緒性の改善 情緒の安定気分転換
	疼痛緩和	疼痛のある対象者に対して、温罌法と音楽聴取を組み合わせた ケアが疼痛の緩和
意識状態の維持・改善	意識の改善	開眼する回数の増加
	記憶、思考力の維持・向上	幼少期を回想 注意力や集中力の向上
生活行動改善	生活リズムの改善	夜間睡眠中の覚醒回数が減少
	他者との良好な関係づくり	会話のきっかけコミュニケーション能力を呼び戻す 対人交流の活性化 協調性の改善 共に歌うことや共に、楽器、特にピアノ活動において、療法士から学ぶ姿勢が見られた 落ち着き、コミュニケーションもはかりやすかった ナースとのコミュニケーションの改善 歌を通じて、コミュニケーションにおける成長 拒否的行動の減少
患者と家族のQOLの向上	本人のQOL向上	社会的機能が向上 成長・発達支援としての効果 QOLの向上 患者の理解力改善・向上
	医療資源としての療法	医療スタッフが音楽療法実践の意義についての理解が得られた 患者と医療者、音楽療法士の間チームとしての協力体制が次第に築かれた 医療資源の乏しい地域においても、在宅療養を支えるチーム医療に寄与できる療法 認知症予防としての活動が地域に根付きかけた
	療法の継続	参加した患者が音楽療法実践の継続を希望している 外来から8年間ずっと継続して参加した患者がいた
	家族のQOL向上	患者本人のみでなく家族も参加 子どもの頑張る姿をみて親は安心

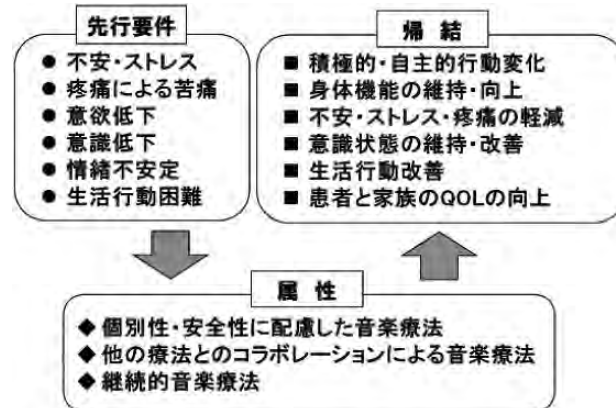


図 1 看護における音楽療法の概念モデル

表 4 日本の看護における音楽療法の概念分析使用文献一覧

テーマ	著者/所属	文献名	文献の種類
急性期の脳血管障害患者の覚醒リズムの改善に向けて 車椅子乗車中のリハビリテーションプログラムを行って	太田 千尋(秦野赤十字病院), 長岡 杏奈	日本看護学会論文集 成人看護 (1347-8192)44号 Page153-156(2014.05)	原著論文/事例
身体機能障害をもつ入院患者への音楽活動がリハビリテーションに与える効果	中島 淑恵(福島県立医科大学 看護学部療養支援看護学部門), 菅原 淳, 山本 育子, 林 明人, 坂本 祐子	福島県立医科大学看護学部紀要(1344-6975)16号 Page37-46(2014.03)	原著論文/事例
変形性膝関節症患者に対して温電法と音楽聴取を組み合わせた疼痛緩和ケアの効果 脳筋指標と心理的指標を用いた研究	福満 舞子(大阪府立大学 大学院看護学研究科 博士後期課程), 杉本 吉恵, 田中 結華, 高辻 功一	大阪府立大学看護学部紀要(1880-7844)18巻1号 Page23-31(2012.03)	原著論文/ランダム化比較試験
認知症高齢者を対象とした回想を促す音楽の介入による効果 身体・精神機能および社会性の変化について	伊藤 愛子(三重大学医学部附属病院), 磯和 勲子	日本看護学会論文集 看護総合(1347-815X)42号 Page272-275(2012.03)	原著論文
寝たきり患者に対する音楽療法の効果	阿部 由美(新津医療センター病院), 山田 裕子, 石井 和子, 吉沢 麻美, 河野 洋子, 内田 陽子	日本看護学会論文集 老年看護(1347-8249)42号 Page54-56(2012.01)	原著論文
音楽が認知症高齢者に及ぼすQOLの向上 回想法となじみの音楽を用いた実践	松原 由美(九州保健福祉大学 社会福祉学部子ども保育福祉学科)	九州保健福祉大学研究紀要(1345-5451)12号 Page79-84(2011.03)	原著論文
術後集中治療室に入室する患者に対する音楽療法の効果 術後1日目に実施した3事例から	山田 卓子(山梨大学 大学院医学工学総合研究部基礎・臨床看護学講座), 浦川 加代子	日本音楽療法学会誌(1346-6119)9巻2号 Page161-167(2009.12)	原著論文
A病院での神経難病患者に対する音楽療法実践 継続的活動を支える患者と実践スタッフの関係	佐治 順子(宮城大学 看護学部), 多賀 真理, 大友 真美, 松山 歩, 井口 綾子, 佐藤 良子, 佐々木 千恵子, 門間 久美子, 久永 欽哉, 木村 裕, 望月 康	宮城大学看護学部紀要(1344-0233)12巻1号 Page77-89(2009.03)	原著論文
音楽療法がパーキンソン病患者の健康状態に与える効果に関する評価研究 ウェアラリングの視点から作成したアンケート調査を通して	猪狩 千代子(札幌医科大学 保健医療学部), 佐治 順子	日本音楽療法学会誌(1346-6119)9巻2号 Page154-163(2008.12)	原著論文/比較研究
音楽療法実践における固有テンポに関する行動学的・生理学的研究(第2報)「固有テンポ」歌唱前・中・後における心拍数・血圧・呼吸との関係	佐治 順子(宮城大学 看護学部), 阿部 誠, 川村 武, 猪狩 千代子, 佐治 量哉	日本音楽療法学会誌(1346-6119)8巻2号 Page135-144(2008.12)	原著論文/比較研究
音楽療法実践における固有テンポに関する行動学的・生理学的研究(第1報) 認知症高齢者と知的障害児・者の音楽療法実践に基づく行動学的予備研究	佐治 順子(宮城大学 看護学部), 宍戸 幽香里, 藤本 禮子, 米倉 裕子, 糟谷 由香, 稲葉 千賀, 富塚 まち子	日本音楽療法学会誌(1346-6119)8巻2号 Page123-134(2008.12)	原著論文
過疎地の在宅神経疾患患者への音楽療法の試み 音楽療法士から訪問看護師への連携	河合 環(宝積クリニック), 成田 有香, 小野 郁代, 三宅 マヤ	神経治療学(0916-8443)25巻4号 Page471-475(2008.07)	原著論文/症例報告
認知症高齢者の自覚性を引き出す集団音楽療法における介入スキル	森野 悦子(北海道医療大学 看護福祉学部看護学専攻), 山田 律子, 常田 いづみ, 井出 訓	北海道医療大学看護福祉学部学会誌(1349-8967)4巻1号 Page17-27(2008.03)	原著論文
認知症高齢者への非薬物療法としてのコラーージュ療法の効果 音楽療法との併用による	宮本 奈美子(県立広島大学 保健福祉学部看護学専攻), 山本 映子, 木島 ほづみ, 吉岡 由美子	人間と科学 県立広島大学保健福祉学部誌(1346-3217)8巻1号 Page145-155(2008.03)	原著論文
効果的な認知症予防事業に関する実践的研究 音楽療法とレクリエーション活動の組み合わせに対する比較検討	横井 和美(滋賀県立大学 人間看護学部), 国友 倉久子, 島田 洋子, 辻 利美子	人間看護学研究(1349-2721)5号 Page81-88(2007.03)	原著論文/比較研究
通所リハビリテーションに通う認知症高齢者のストレスの事例研究	大森 美津子(香川大学 医学部看護学専攻), 小林 春男, 大浦 智華, 越智 百枝, 古川 不二江, 植松 昌也, 浅野 幸恵, 谷岡 哲也	香川大学看護学雑誌(1349-8673)11巻1号 Page47-55(2007.03)	原著論文
慢性統合失調症患者における音楽療法とコラーージュ療法の併用効果	山本 映子(県立広島大学 保健福祉学部看護学専攻), 木島 ほづみ, 吉岡 由美子, 宮本 奈美子	人間と科学 県立広島大学保健福祉学部誌(1346-3217)7巻1号 Page155-168(2007.03)	原著論文
筋萎縮性側索硬化症に対する音楽療法 神経心理学的検査と生理学的側面からの検討	美原 盤(美原記念病院), 美原 潤子, 藤本 幹雄, 永島 隆秀, 富田 祐, 高尾 昌樹	日本音楽療法学会誌(1346-6119)6巻1号 Page23-32(2006.06)	原著論文/比較研究
子ども病院の日帰り手術における音楽療法の役割	榊田 裕子(兵庫県立こども病院), 辻 睦子	日本音楽療法学会誌(1346-6119)6巻1号 Page3-16(2006.06)	原著論文/比較研究
重複視覚障害を持つKの成長と音楽の関わり	鈴木 はるみ(北海道医療大学)	北海道医療大学看護福祉学部学会誌(1349-8967)2巻1号 Page125-127(2006.03)	原著論文/症例報告
音楽療法により抑うつ状態が改善した筋萎縮性側索硬化症患者の1例 多専門職者で構成される音楽療法チームによる対応	美原 潤子(美原記念病院), 高畑 君子, 内田 瑞枝, 永島 隆秀, 美原 盤	日本音楽療法学会誌(1346-6119)5巻2号 Page214-221(2005.12)	原著論文
音楽療法によりbehavioral and psychological symptoms of dementia(BPSD)が軽減した認知症高齢者の2例	能見 昭彦(脳血管研究所介護老人保健施設アルボース), 美原 潤子, 美原 恵里, 細谷 美内, 美原 盤	日本音楽療法学会誌(1346-6119)5巻2号 Page207-213(2005.12)	原著論文
アルツハイマー型痴呆患者の終末期音楽療法	佐治 順子(宮城大学 看護学部看護学専攻), 菅井 邦明	日本音楽療法学会誌(1346-6119)3巻2号 Page183-195(2003.12)	原著論文/症例報告
痴呆高齢者に対する音楽療法の効果 大集団セッションと小集団セッションとの比較検討	美原 盤(美原記念病院), 細谷 美内, 美原 潤子, 藤本 幹雄	日本音楽療法学会誌(1346-6119)4巻2号 Page208-216(2004.12)	原著論文/比較研究
音楽体験を主題にしたケアの試み 入院患者を対象に	那須 実千代(健和会臨床看護学研究所)	聖路加看護学会誌(1344-1922)9巻1号 Page1-10(2005.06)	原著論文
高齢パーキンソン病患者への看護音楽療法の効果 プログラムの精練と看護技術の効果の再評価を通して	川島 みどり(柳原病院), 東郷 美香子, 平松 則子, 伊藤 恵里子, 佐藤 郁子, 川口 孝泰	日本赤十字看護大学紀要(0914-2444)18号 Page1-21(2004.03)	原著論文
痴呆を伴う終末期患者の音楽療法 特に家族のかかわりの重要性について	杉野 昌子(愛泉館), 川原 悦子	日本音楽療法学会誌(1346-6119)1巻2号 Page150-154(2001.12)	原著論文
肺癌術後の在宅看護における音楽療法	宮本 昌子(四街道市)	日本音楽療法学会誌(1346-6119)1巻2号 Page137-142(2001.12)	原著論文
看護サイドからみた高齢入院患者に対する音楽療法の導入の試み	丸山 敬子(丸山音楽教室), 南雲 幸枝, 丸山 晋司	日本音楽療法学会誌(1346-6119)1巻1号 Page80-86(2001.06)	原著論文
喘息患に行った音楽療法を用いた呼吸訓練法	福田 義子(日本音楽療法研究連合)	チャイルドヘルス(1344-3151)3巻6号 Page478-479(2000.06)	原著論文
CCUにおける冠動脈疾患患者に対する音楽療法の効果	山口 伸子(東京女子医科大学附属日本心臓血管圧研究所), 長瀬 早苗, 前坂 尚子, 他	ICUとCCU(0389-1194)14巻7号 Page693-700(1990.07)	原著論文
人工呼吸器離脱期および回復期の患者に音楽の導入を試みて	三谷 しのぶ(岡山大学病院 集中治療), 大谷 由美, 高馬 章江, 他	ICUとCCU(0389-1194)13巻7号 Page647-650(1989.07)	原著論文

表 5 日本の小児看護における音楽療法の先行要件

カテゴリー	サブカテゴリー	内容	
入院・検査・処置・手術に対する不安・ストレス・疼痛・苦痛	外来待ち時間	外来待ち時間 不安・緊張	
	手術	検査	脳波検査の睡眠導入
		手術	意識下手術時に患者が感じる不快音 手術に対する不安
	入院・治療	入院・治療	
NICU入院・治療	NICU入院・治療	低出生体重児 無呼吸発作 ストレス 疼痛	
		精神的苦痛	薬剤性の精神症状 身体的・精神的苦痛
情緒不安定	情緒不安定	児の情緒不安定	
生活行動困難	生活行動困難	多動性 自ら遊びを習得していく困難さ	
子育て支援	子育て支援	子育て支援	

表 6 小児看護における音楽療法の属性

カテゴリー	サブカテゴリー	内容
看護師によるBGM使用の受動的音楽療法	BGMによる音楽を流す	胎児期より音楽を繰り返し聞かせる
		NICU入室時より、音楽で児の反応に応じた介入を行う
		オルゴールに音楽聴取
		ヘッドホン着用のBGM
音楽療法士や音楽家による生演奏の受動的音楽療法	音楽療法士による生演奏	癒し系・童謡などの音楽(以下,BGM)を流し
		音楽療法士による音楽療法
	音楽家による生演奏	音楽療法士による音楽療法
		看護師と音楽療法士が連携を取り、日帰り手術時に音楽療法を行う。
参加型セッションによる生演奏の能動的音楽療法	音楽セッション	月に一回の生演奏による音楽会
		音楽活動提供者が患児に介入 ピアノを用いた活動。
		音楽セッション
		音楽セッションによる遊び

表 7 日本の小児看護における音楽療法の帰結

カテゴリー	サブカテゴリー	内容
家族の前向きな行動へ変化	前向きな子育て姿勢	歌やベビーマッサージを子どものために覚えたい 子育てに喜びを見出せた
	周囲とのつながりの拡大	母親同士のつながりができた 家族間の関わりが増えた
母児双方のリラックス	母親のリラックス	その姿を見て母親もストレス不安を軽減 妊婦は心身のリラックス 母児双方の心身によい影響 保護者がリラックス 母親が気分転換できる
	子どものリラックス	小児がリラックス 気持ち良く検査を受けるための一つの方法 不快感が大幅に軽減
積極的・自主的行動変化	前向きな闘病生活	闘病生活の行動に変化 前向きな入院生活 早期の退院、 有意な自発的表現 リラックスした行動変化
	自主的行動に変化	子どもが喜んだ 積極的に行動を起こした 重心児の遊びの充実 積極性・自主性など行動にも変化
	社会性の変化	セラピストと楽器演奏による自会話と即興演奏に興じる、 活動による小さな成功体験は、患児の社会性の発達機会 児の持っている可能性を引き出し成長発達を促す 患児は美しい発語が見られた。 音楽や楽器演奏に関心を持つ
身体機能の向上	身体機能の良好な変化	機能の維持・向上 酸素やエネルギーが有効に活用 投与酸素量の減少、 体重増加 無呼吸の減少 麻痺痺の身体所感覚も訓練ができた 神経学的な発達にもよい影響
不安・ストレス・疼痛の軽減	身体的苦痛の軽減	児のストレスや疼痛の緩和 身体的・精神的苦痛の軽減
	不安の軽減	手術に対する不安が軽減 手術室に不安なく入室できる
児と家族のQOLの向上	生活空間の良好な変化	音楽療法士と看護師の情報共有にて、患者家族にとってその場で適切と考えられる 援助につながる 周囲の子供たちへの良い影響 待機時間がより日常に近い環境

表 8 日本の小児看護における音楽療法の使用文献

テーマ	著者/所属	文献名	論文の種類
BGMを用いた外来待ち時間の不安や緊張感の軽減	田中 淑江(島根県立中央病院 外来部門), 布 廣 早苗	日本看護学会論文集:看護総合 (1347-815X)35号 Page145-147(2004.11)	原著論文/比較研究
幼児の脳波検査前の音楽聴取が睡眠導入におよぼす効果 鑑しの効果をもつオルゴールの音楽聴取を試みて	有田 敏子(広島市立舟入病院), 森 麻美, 上 原 麗子, 長沼 典美	日本看護学会論文集:小児看護 (1347-8222)39号 Page6-8(2009.03)	原著論文/ランダム化比較 試験
意識下手術時に患者が感じる不快音の緩和 ヘッドホンの効果について	倉田 香樹(埼玉中央病院(社保)), 岡田 保 子, 若見 貴子, 野尻 直実	日本看護学会論文集:成人看護 I(1347-8192)37号 Page380-381(2007.04)	原著論文/ランダム化比較 試験
【短期入院や日帰り手術を受ける小児の看護】看護実践 日帰り手術を受ける小児の手術室における看護	川崎 妃美(兵庫県立こども病院 手術室), 藤 田 真理子	小児看護(0386-6289)34巻 6号 Page728-736(2011.06)	解説/特集
小児病棟における音楽療法の現状と今後の課題	長町 有里子(日本赤十字社和歌山医療センター), 馬越 明子, 木下 里果, 中尾 ひろみ	日本看護学会論文集:小児看護 (1347-8222)36号 Page244-246(2006.02)	原著論文
重症心身障がい児のスヌーズレンの反応から関わり方を 探る	小菅 さゆり(新潟県立はまぐみ小児療育セ ンター), 日本 真理, 野口 秀子	療育(0036-0538)49号 Page61(2008.07)	会議録
【周産期からNICUで過ごす子どもの命と死 家族への かかわりとEnd-of-Life Care】周産期・NICUにお ける音楽療法	兵 東 進(同志社大学 赤ちゃん学研究セ ンター)	小児看護(0386-6289)32巻 13号 Page1774- 1780(2009.12)	解説/特集
癒しにおける生演奏の有効性	曾世田 宗緒(聖マリアンナ医科大学附属 病院), 北條 眞理江, 渋谷 このみ, 花上 啓 子	日本看護学会論文集:成人看護 III(1347-8206)33号 Page269-271(2003.01)	原著論文
胎児期からのミュージックセラピーに関する研究	堀井 満穂(富山医科薬科大学 医 看護), 早 川 聖世, 藤川 恵理子, 長谷川 とみみ, 塚田 トキエ	富山医科薬科大学看護学会誌 (1344-1434)2号 Page87- 94(1999.03)	原著論文
自閉症児A君との音楽療法 会言語によるコミュニケー ションを通して	佐治 順子(宮城大学 音), 佐治 亜矢子, 上西 善子	宮城大学看護学部紀要(1344- 0233)5巻1号 Page37- 43(2002.03)	原著論文
重症心身障がい児に音楽活動を利用した遊びの効果	阪本 利恵(兵庫県立のじぎく療育セ ンター), 岡本 八重子, 飯原 真紀, 橋本 かへ で	日本看護学会論文集:小児看護 (1347-8222)30号 Page130-132(2000.04)	原著論文
病院の「子育て支援の会」が母親へ与える影響	蛭部 敏子(山形県立河北病院), 井上 佐祐 実, 丹野 かおり, 古瀬 みどり	日本看護学会論文集:母性看護 (1347-8230)42号 Page54-57(2012.02)	原著論文

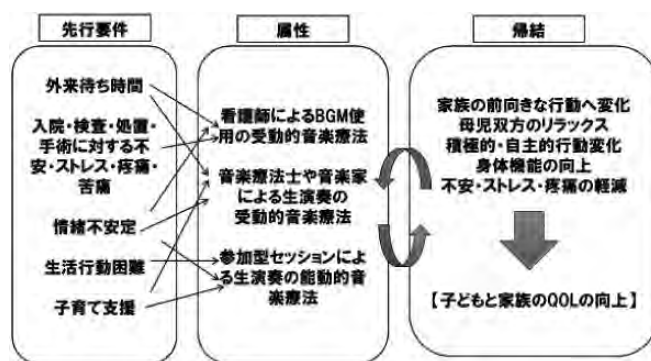


図 2 日本の小児看護における音楽療法の概念モデル

VII. 結 論

Rodgers らの概念分析のアプローチを用いて看護らびに小児看護における音楽療法の概念分析を行った。その結果、【看護に関するもの】は3つの属性、6つの先行要件、6つの帰結を抽出し、概念は「患者と家族の日常生活場面や医療を受けるさまざま看護場面において、患者と家族をリラックスさせ、患者と家族の意欲と生活能力を引き出す看護ケア」と定義した。

【小児看護に関するもの】は3つの属性、5つの先行要件、6つの帰結を抽出し、概念は「子どもと家族の日常生活場面や医療を受ける場面において、子どもと家族をリラックスさせ、本来持っている子どもと家族

の能力を引き出すケア」と定義した。2つの概念から、さまざまな看護場面で音楽療法を活用することにより、患者と家族のQOL向上につながる看護実践の推進をする重要性を含んでおり、概念に基づく看護実践ならびに小児看護実践に向けてのさらなる研究が必要である。

利益相反

開示すべき COI は存在しない。

本論文は、2015年7月に開催された日本小児看護学会第25回学術集会と2015年12月開催の第35回日本看護科学学会学術集会で発表したものをまとめたもの

である。

引用文献

- 1) 林 文代, 杉浦静子:看護場面において音楽を利用した論文の文献的考察, 11 - 18, 三重県立看護短期大学紀要, 1991.
- 2) 長瀬雅子, 高谷真由美, 櫻井順子, 桶野恵子, 中島淑恵, 青木きよ子:看護職者の補完代替医療への関心と看護ケアとしての活用における課題-首都圏に勤務する看護師を対象とした質問紙調査-, 41-46, 7 (1), 順天堂大学医療看護学部 医療看護研究, 2011.

参考文献

- 1) 川島みどり, 東郷美香子, 平松則子, 伊藤恵里子, 佐藤郁子, 川口孝泰:高齢パーキンソン病患者への看護音楽療法の効果-プログラムの精練と看護技術の効果の再評価を通して-, 18, 1-21, 日本赤十字看護学会誌, 2004.
- 2) 野田燎:医療機関における音楽運動療法導入の基礎研究, 平成 21 年度 塚本学院教育研究補助費 研究成果報告, 2010.
- 3) 野田燎:音楽運動療法入門, 工作舎, 2009.
- 4) 野田燎:芸術と科学の出会い 音楽運動療法の理論と実践, 医学書院, 1995.
- 5) 野田燎, 後藤幸男:脳は甦る音楽運動療法に甦生リハビリ, 大修館書店, 2000.
- 6) 日野原重明監修:標準音楽療法入門 上 理論編 改訂版, 春秋社, 2002.
- 7) Rodgers, B. L.&Knafl, K. A.CONCEPT DEVELOPMENT IN NURSING Foundation, Techniques, and Applications SECOND EDITION, Philadelphia: W. B. Saunders Company, ,2000.